

# シオガマサンゴ

イシサンゴ目シオガマサンゴ科

石川県カテゴリー 地域個体群

国カテゴリー なし

*Oulangia stokesiana miltoni* Yabe et Eguchi

## 選定理由

日本海沿岸では山形県飛島と能登半島の2箇所が生息地として知られている。

## 形態

触手は透明、ポリプの大きさは最大で直径約2cm。莢(骨格)は直径約1cm、莢内の隔壁は黒色だが上縁だけは白色、莢壁は白色。非造礁性の単体イシサンゴで、個虫は直接岩などに固着する。

## 国内分布

冷水性の種類で、太平洋沿岸では三陸海岸に多いが、相模湾、伊勢湾、土佐湾(南限)などに分布する。

## 県内分布

主に能登半島の内浦海岸主体に分布しているが、外浦海岸でも志賀町七見で見つかっている。

## 生態

岩礫性潮間帯の低潮位から水深15~16mまでに多いようであるが、詳細は不明。

## 生息地の条件

九十九湾では、多少浮泥が堆積している海底にも生息している。

## 生存の危機

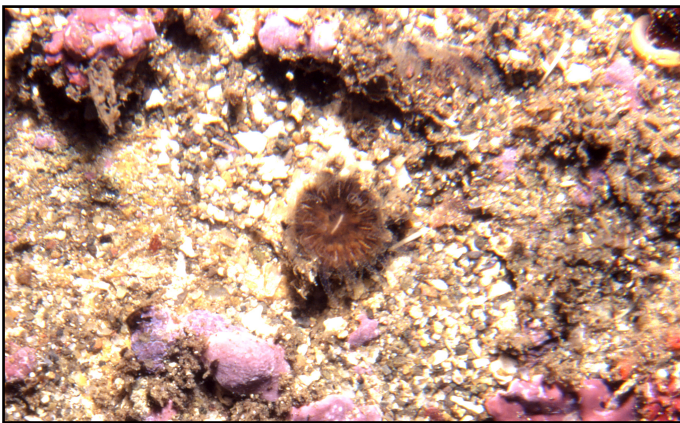
生息水深が浅いので、自然海岸の減少に伴う生息適地の破壊が危惧される。

## 特記事項

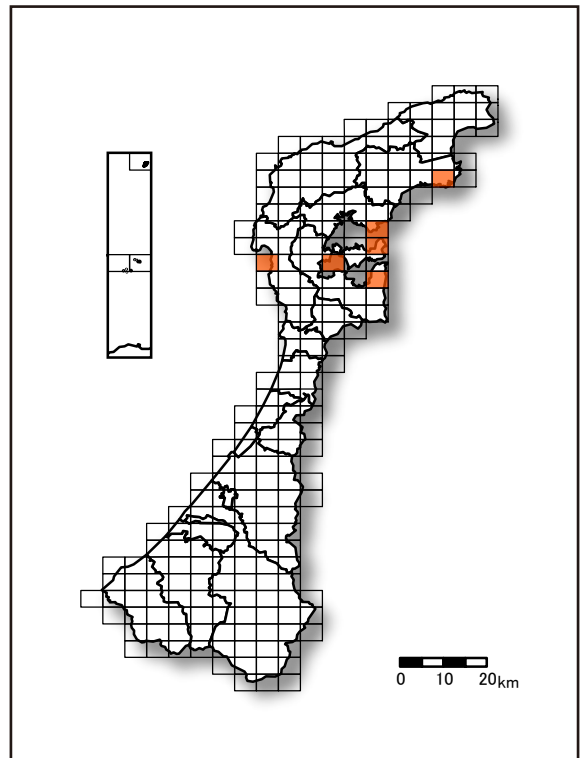
日本固有種で模式産地は宮城県の塩釜湾。九十九湾周辺等ではチョウジガイ科のアオチョウジガイモドキとヒラチョウジガイモドキの2種が生息分布する。

## 参考文献

坂井恵一・福島広行. 1997. 能登半島の3海域でみられた魚類と海産無脊椎動物. のと海洋ふれあいセンター研究報告, (3): 33-42.



写真提供者: 坂井恵一



県内の分布